

木材需給動向について (中部地区)

2021年12月
林野庁

全国の木材需給動向について、
林野庁ウェブサイト（下記URL）にて
毎月資料を更新しています。
[https://www.rinya.maff.go.jp/j/mokusan/r
yutsu/kyougikai.html](https://www.rinya.maff.go.jp/j/mokusan/r
yutsu/kyougikai.html)
（QRコードからもアクセスできます。）



さらに・・・

林産物に関するマンスリーレポート「モクレポ」
木材・木材製品、特用林産に関する最新の統計
データや、林野庁の施策に関するトピックス、セ
ミナー・イベントの情報などを取りまとめ、毎月
中旬に更新しています。
[https://www.rinya.maff.go.jp/j/kikaku/toukei
/monthlyreport.html](https://www.rinya.maff.go.jp/j/kikaku/toukei
/monthlyreport.html)



目次

1 価格の動向

(1) 原木価格（原木市場・共販所）

ア スギ（全国）

イ スギ（中部地区）

(2) 製品価格

2 工場の原木等の入荷、製品の生産等の動向

(1) 製材（全国・中部地区）

(2) 合板（全国）

(3) チップ（全国）

3 住宅着工戸数の動向

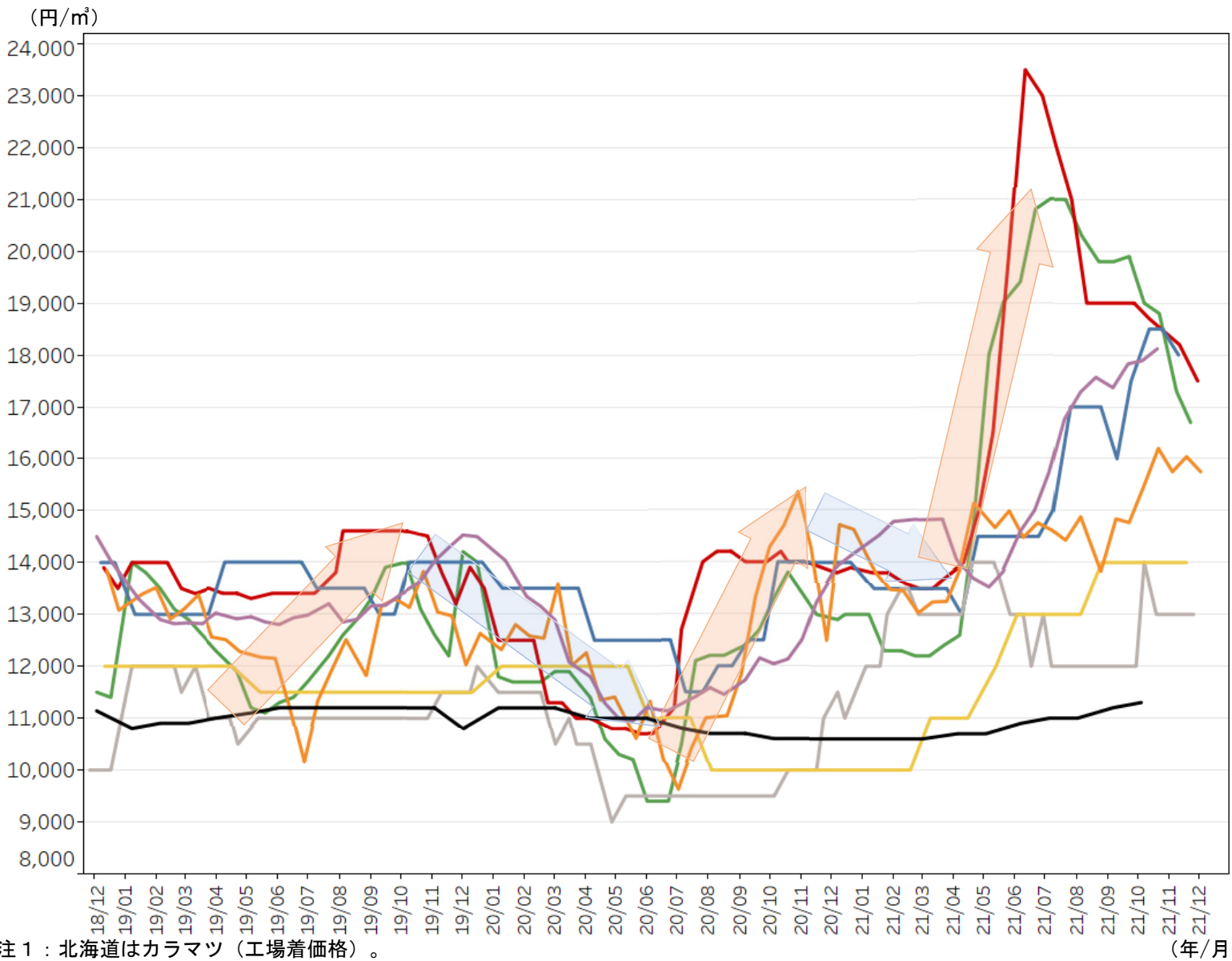
(1) 全国の住宅着工戸数

(2) 中部地区の住宅着工戸数

4 木材輸出額

1 価格の動向 (1) 原木価格 (原木市場・共販所)
ア スギ (全国) 径24cm程度、長3.65~4.0m (2018年12月~)

- 例年であれば春から梅雨時期にかけては原木価格が下落する時期にもかかわらず、2021年に入ってから4月以降、価格が上昇する地域が多く見られる。九州地域では価格が高騰したが、直近では落ち着きも見られる。
- 直近のスギ原木価格は、前年同期比107%から149%となっている。



都道府県	2021年直近※	前年同期	前年同期比
北海道	11,300	10,600	107%
秋田県	18,120	12,130	149%
栃木県	15,750	14,720	107%
長野県	14,000	10,000	140%
岡山県	13,000	11,000	118%
高知県	18,000	14,000	129%
熊本県	17,500	13,900	126%
宮崎県	16,700	13,000	129%

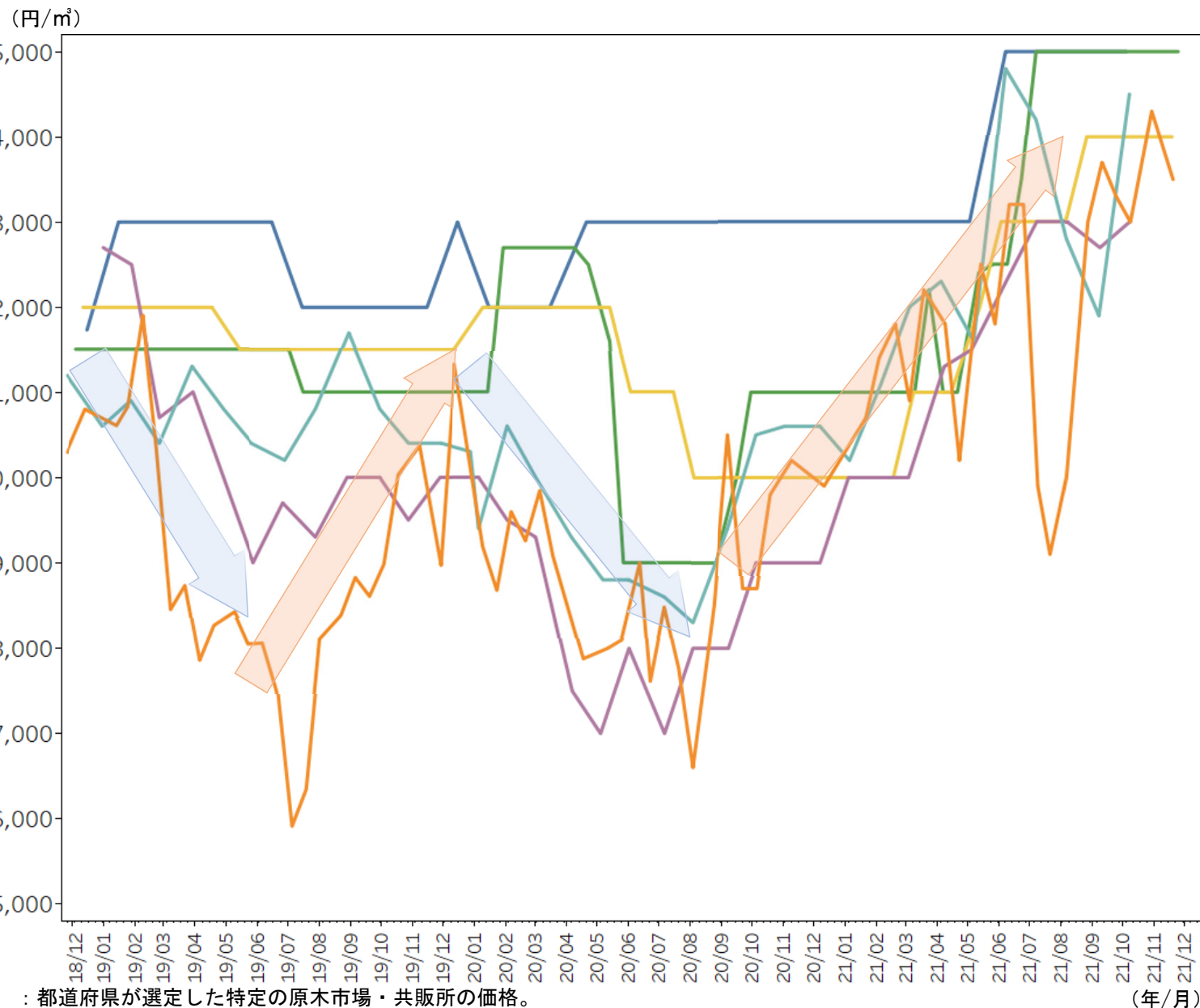
※栃木県、長野県、岡山県、高知県、熊本県及び宮崎県については11月、北海道及び秋田県は10月の値を使用。

注1：北海道はカラマツ（工場着価格）。
注2：都道府県が選定した特定の原木市場・共販所の価格。

資料：林野庁木材産業課調べ

イ スギ（中部地区） 径24cm程度、3.65～4.0m（2018年12月～）

- ・ 例年であれば春から梅雨時期にかけて原木価格が下落する時期にもかかわらず、2021年に入ってから4月以降、上昇が見られる地域が多く見られる。
- ・ 直近のスギ原木価格は、対前年比115%から144%となっている。



都道府県	2021年直近※	前年同期	前年同期比
富山県	13,500	10,200	132%
石川県	14,500	10,500	138%
福井県	13,000	9,000	144%
長野県	14,000	10,000	140%
岐阜県	15,000	11,000	136%
愛知県	15,000	13,000	115%

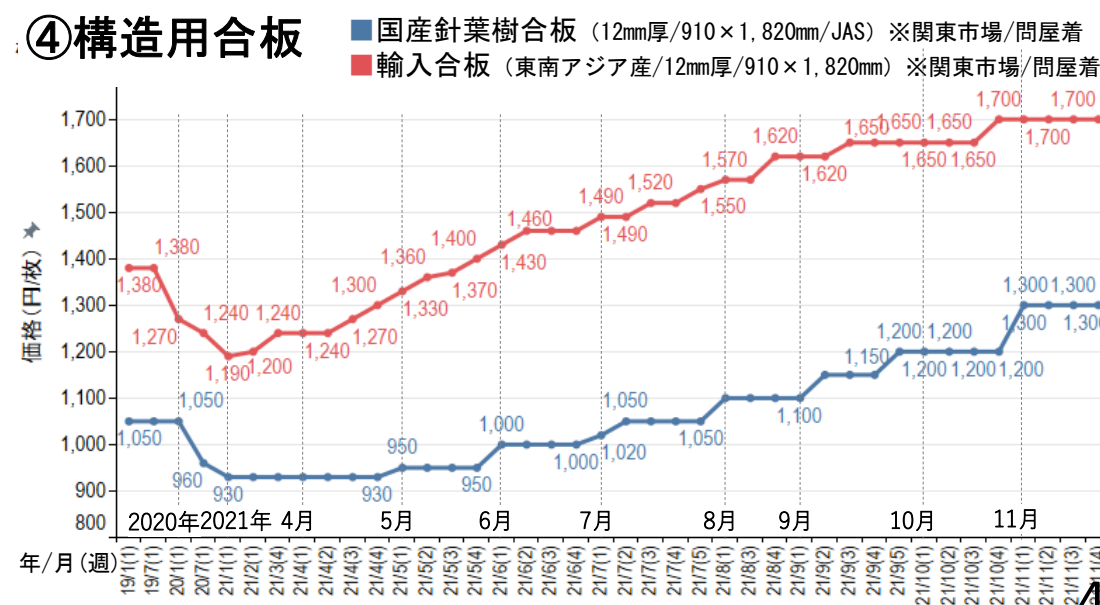
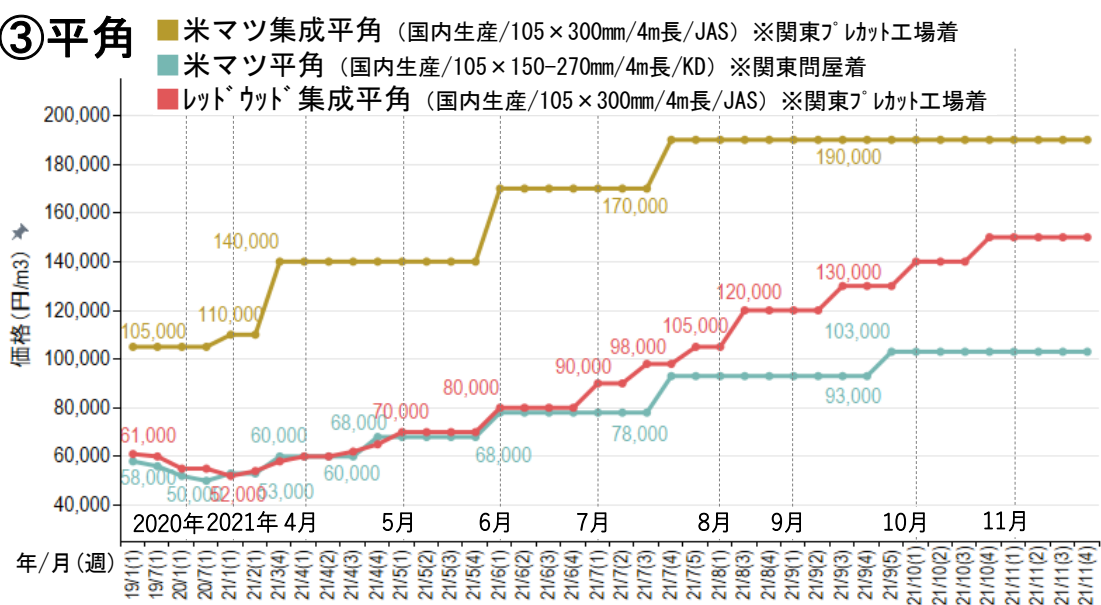
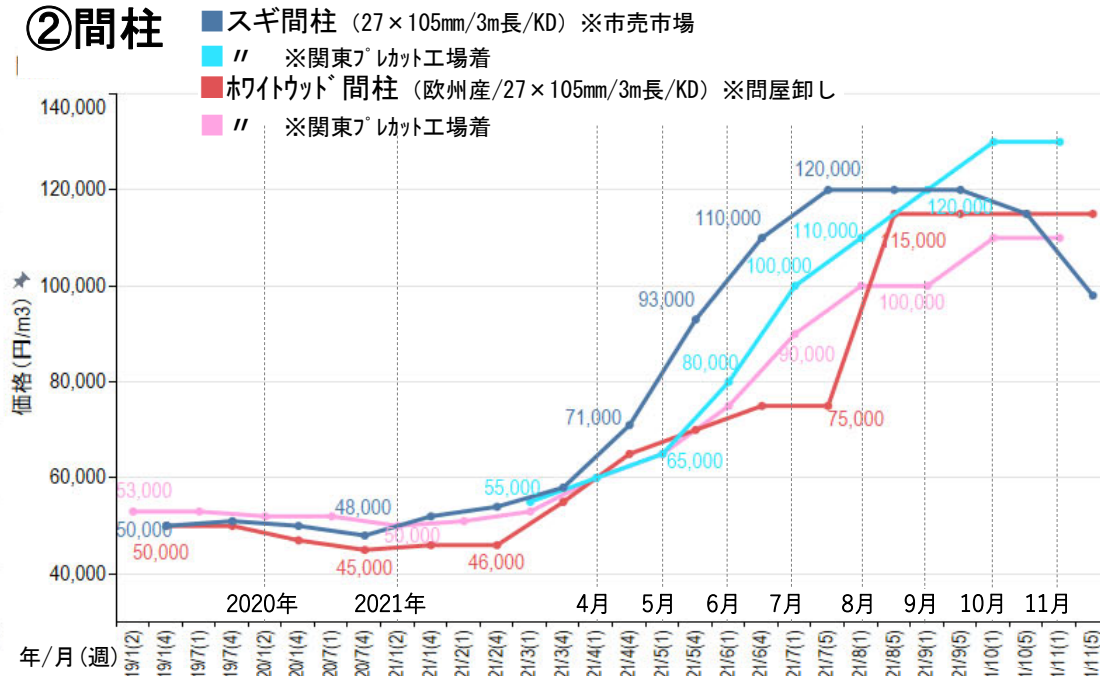
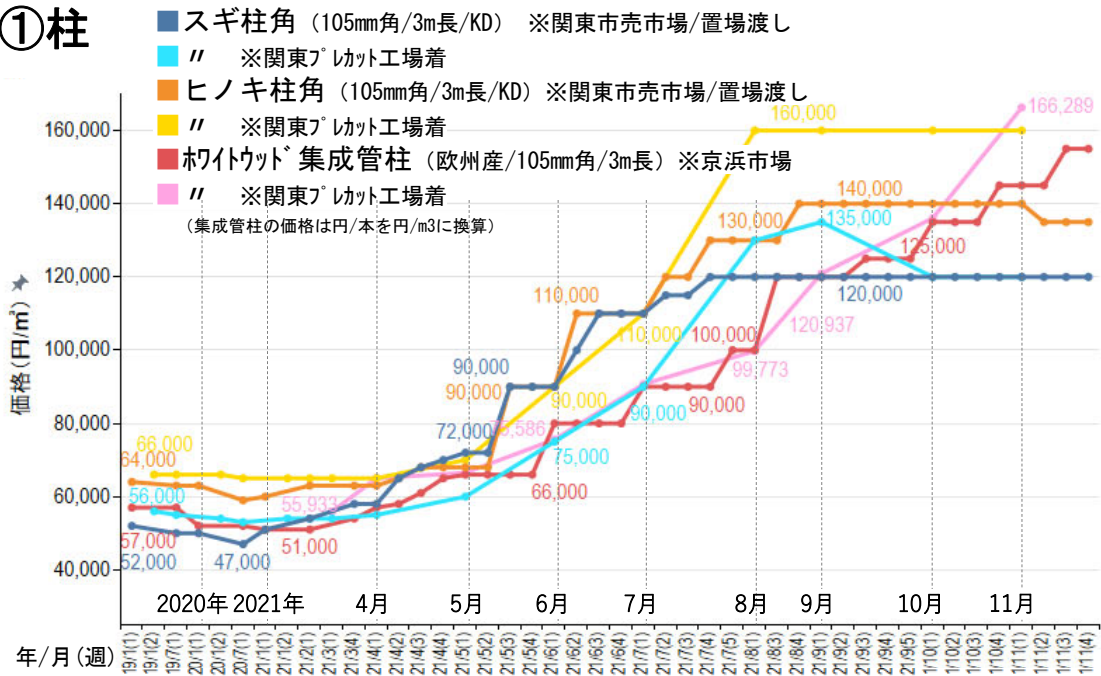
※富山県、長野県については11月、石川県、福井県、岐阜県及び愛知県については10月の値を使用。

注：都道府県が選定した特定原木市場・共販所の価格。

資料：林野庁木材産業課調べ

(2) 製品価格

- ・ 輸入材製品価格は、北米、中国、欧州など世界的な木材不足に加え、コンテナ不足による運送コストの増大等により高騰。
- ・ 国産材の代替需要が発生し、国産材製品価格も上昇が続いている。

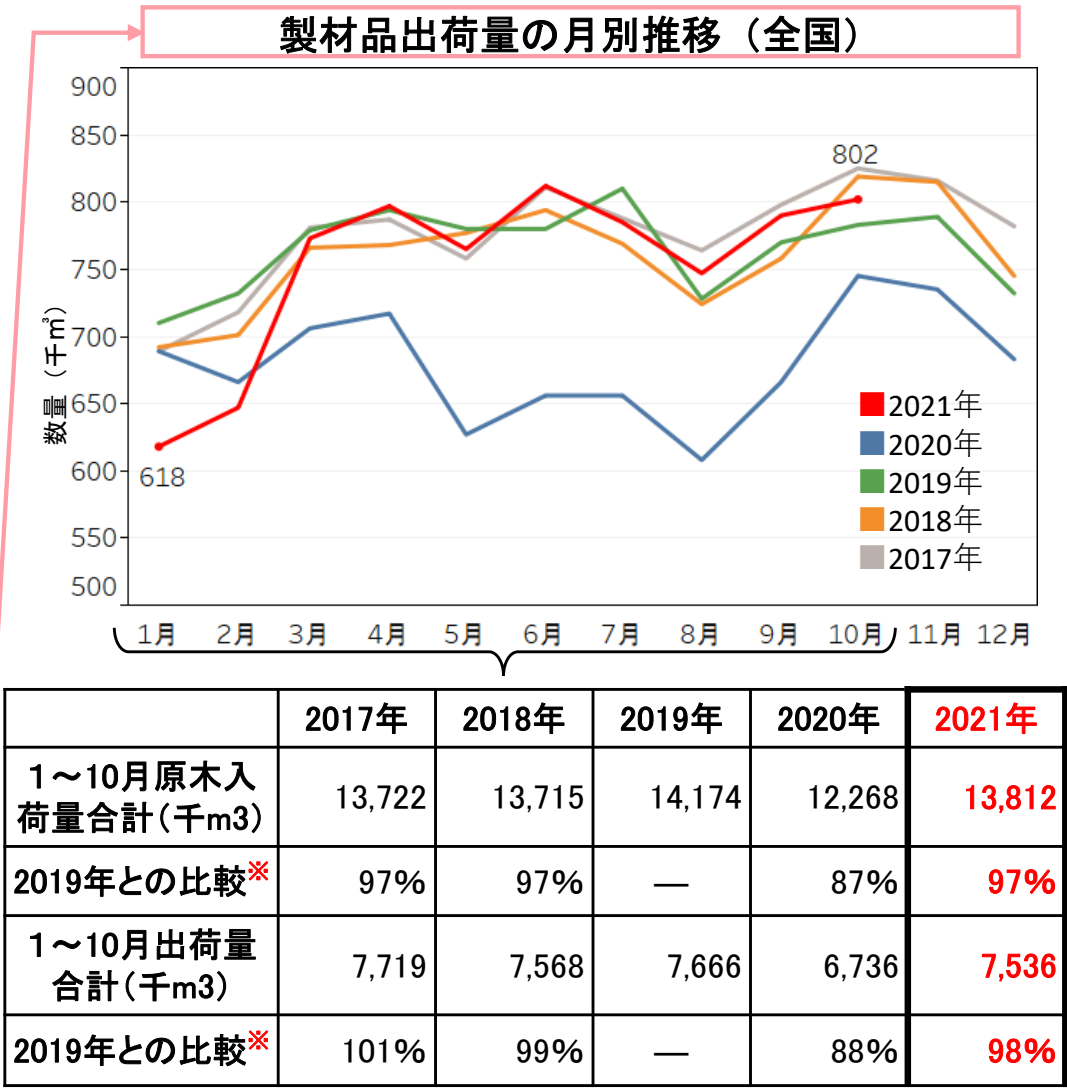
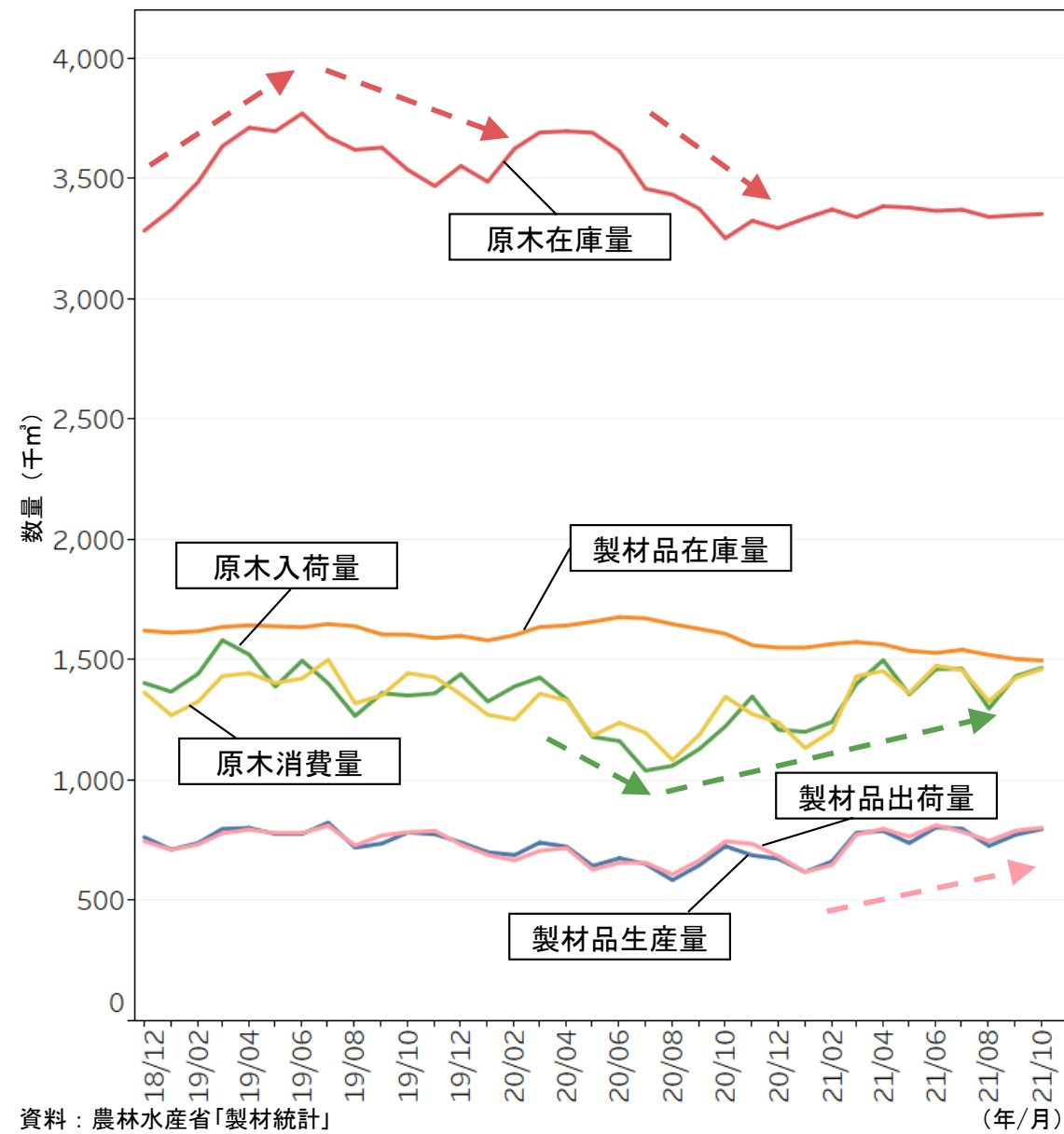


資料：①③④木材建材ウイクリー、①②日刊木材新聞

2 工場の原木等の入荷、製品の生産等の動向

(1) 製材 (全国)

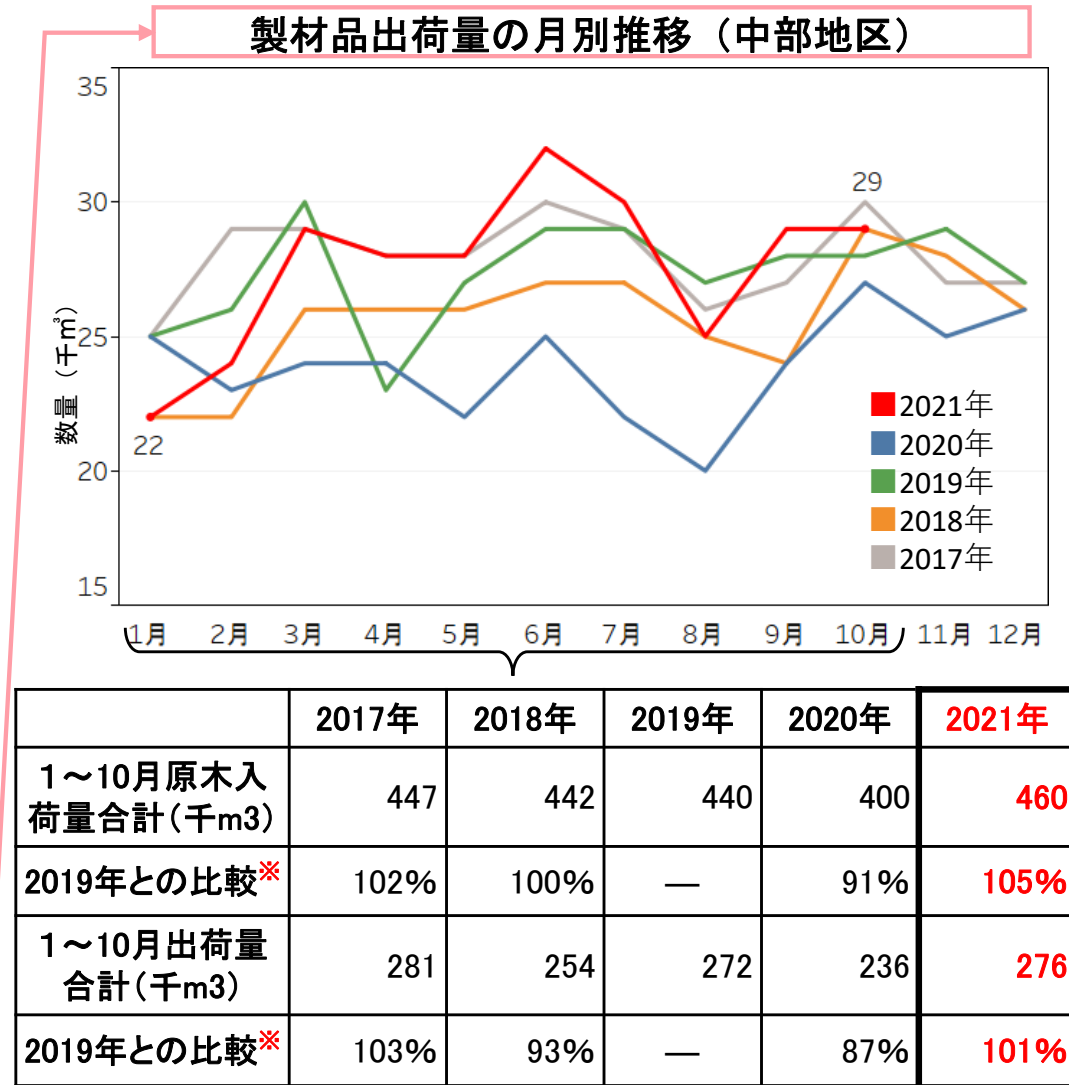
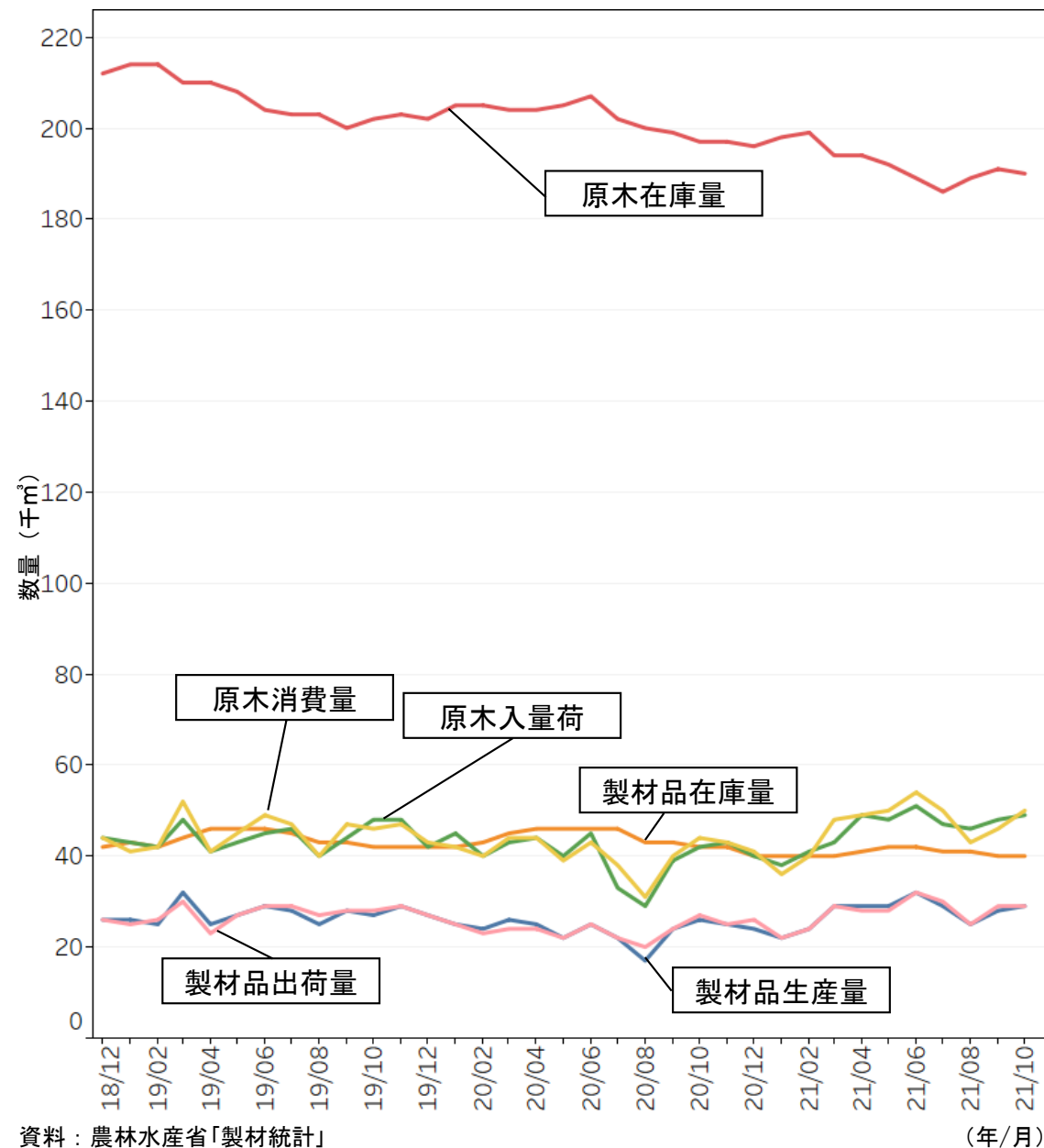
- 2021年1～10月の原木の入荷量は13,812千 m^3 (2019年比97%)。
- 同様に製材品の出荷量は7,536千 m^3 (2019年比98%)、コロナ禍前の水準となっている。



※2019年の数値を100%とした比較

(1) 製材（中部地区）

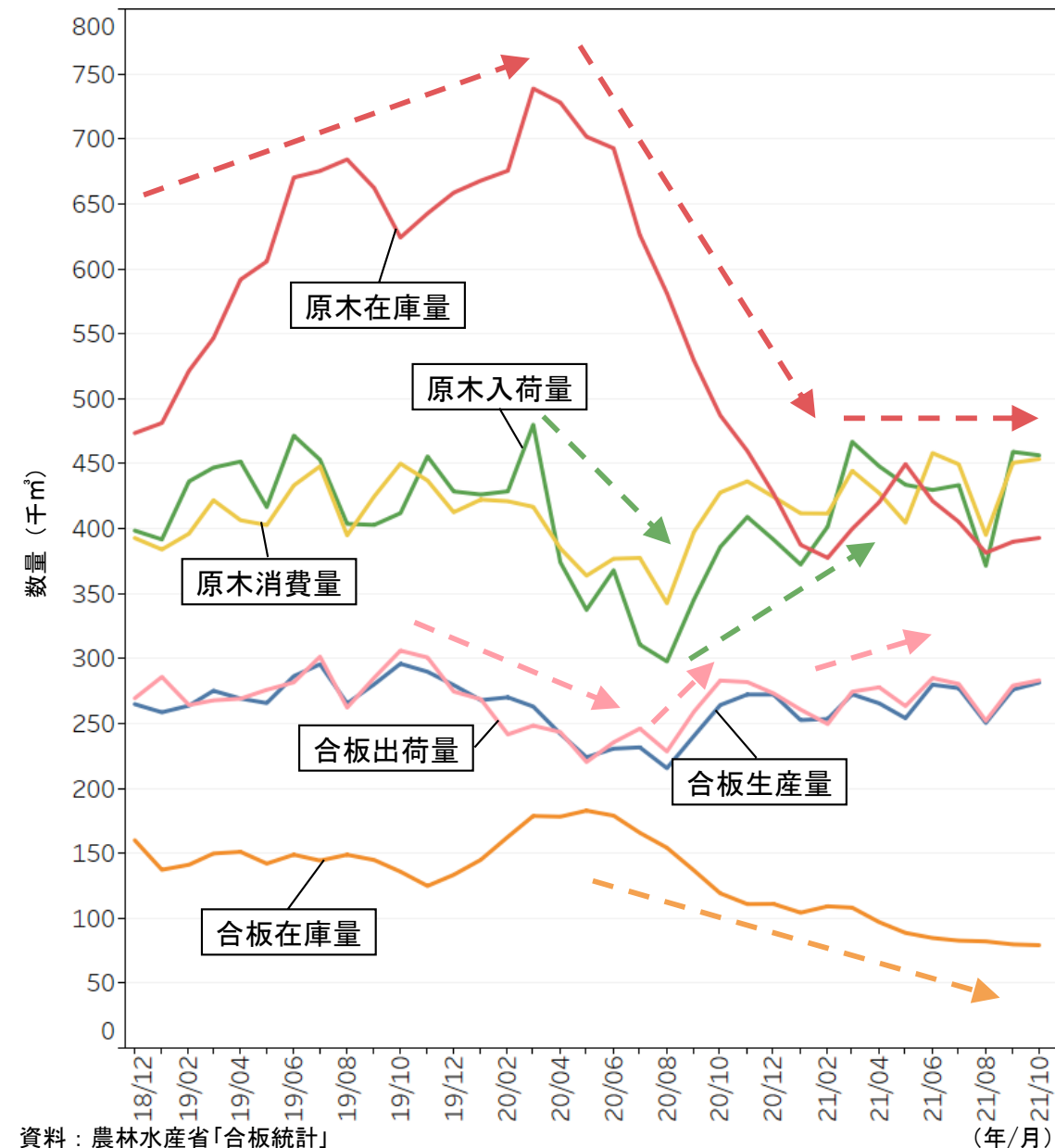
- ・ 2021年 1～10月の原木の入荷量は460千m³（2019年比105%）。
- ・ 同様に製材品の出荷量は276千m³（2019年比101%）、コロナ禍前の水準となっている。



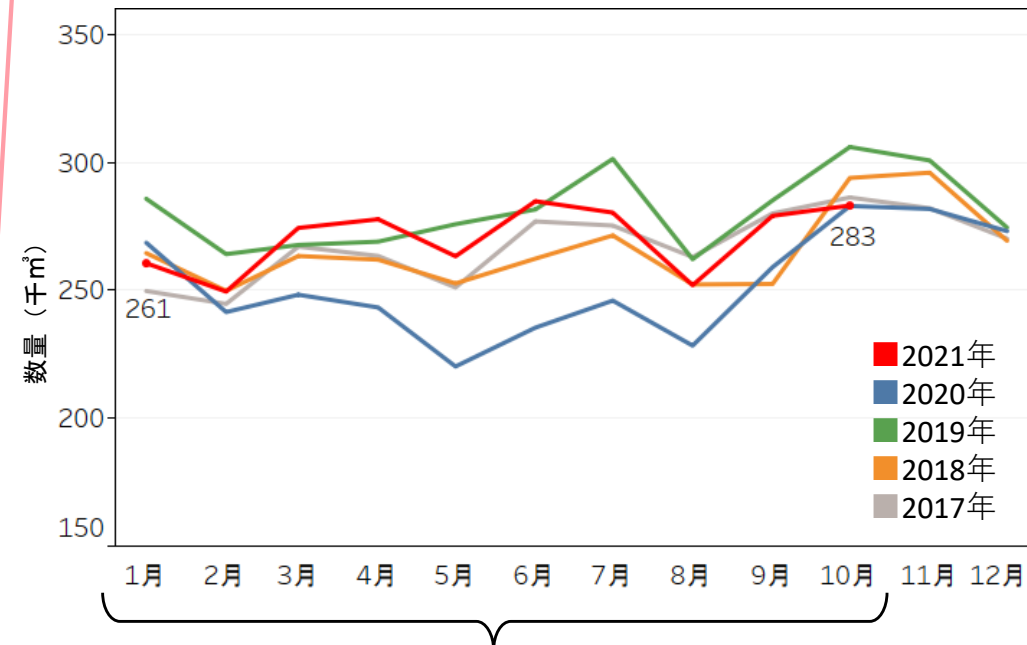
※2019年の数値を100%とした比較

(2) 合板（全国）

- ・ 2021年1～10月の原木の入荷量は4,272千 m^3 （2019年比100%）。在庫量は低い水準となっている。
- ・ 同様に合板の出荷量は2,705千 m^3 （2019年比97%）、コロナ禍前の水準となっている。在庫量は昨年5月から減少傾向。



合板出荷量の月別推移（全国）

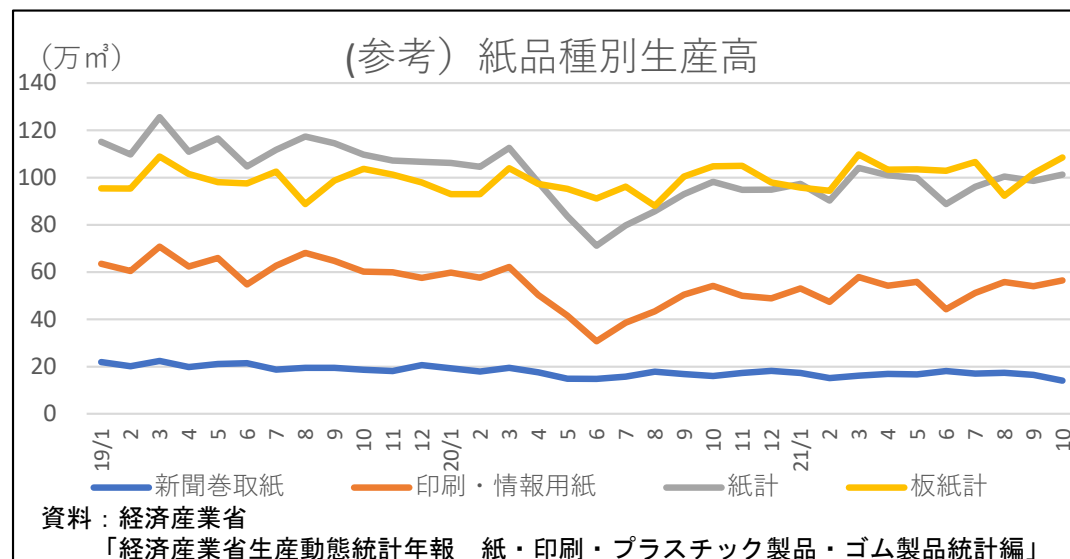
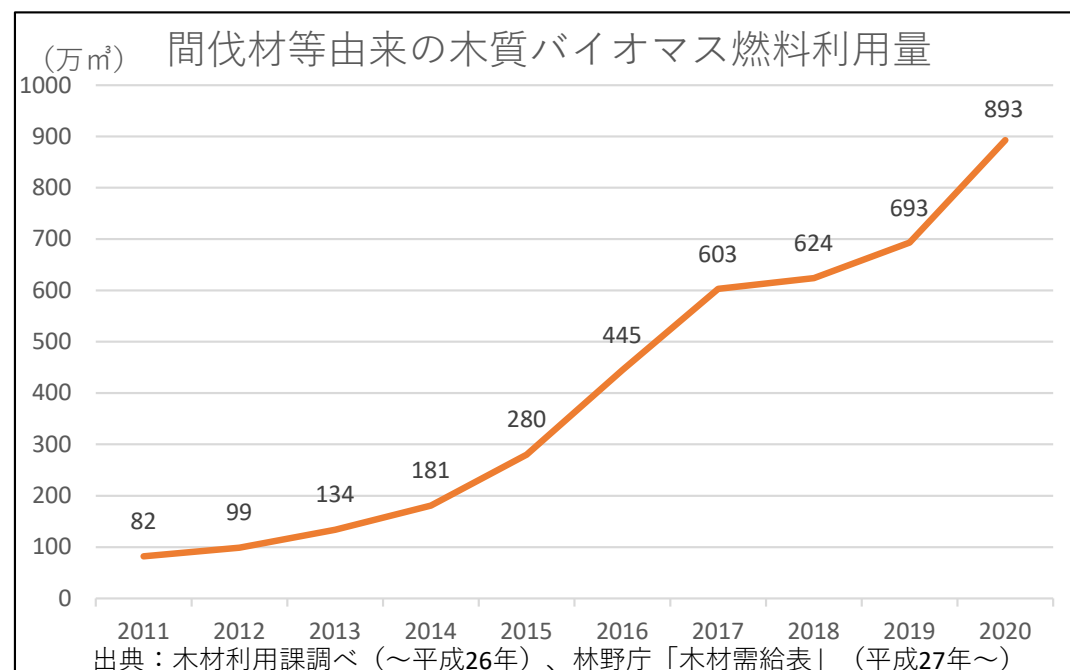
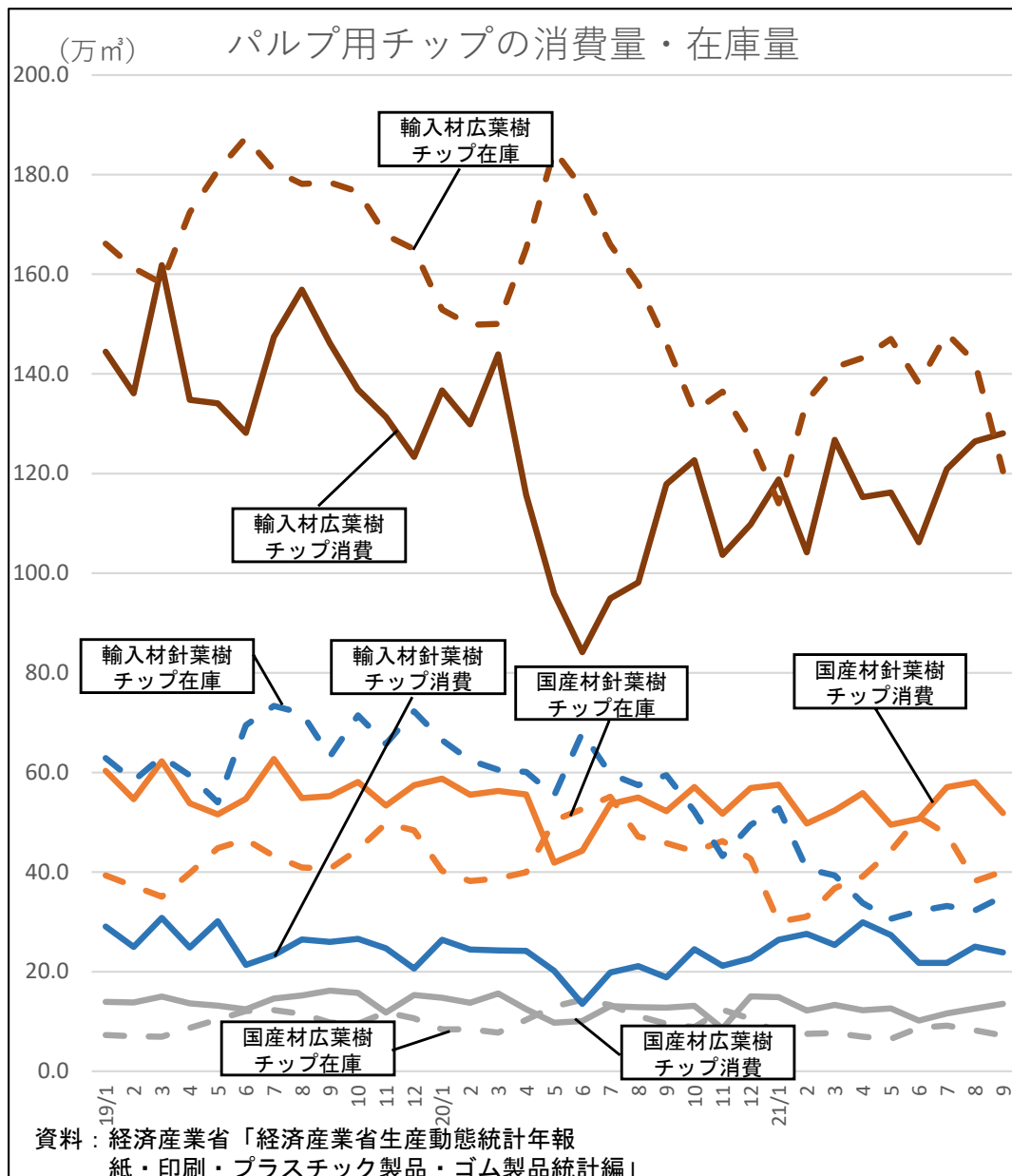


	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
1～10月原木入荷量合計(千 m^3)	3,827	4,113	4,285	3,753	4,272
2019年との比較※	89%	96%	—	88%	100%
1～10月出荷量合計(千 m^3)	2,657	2,625	2,798	2,473	2,705
2019年との比較※	95%	94%	—	88%	97%

※2019年の数値を100%とした比較

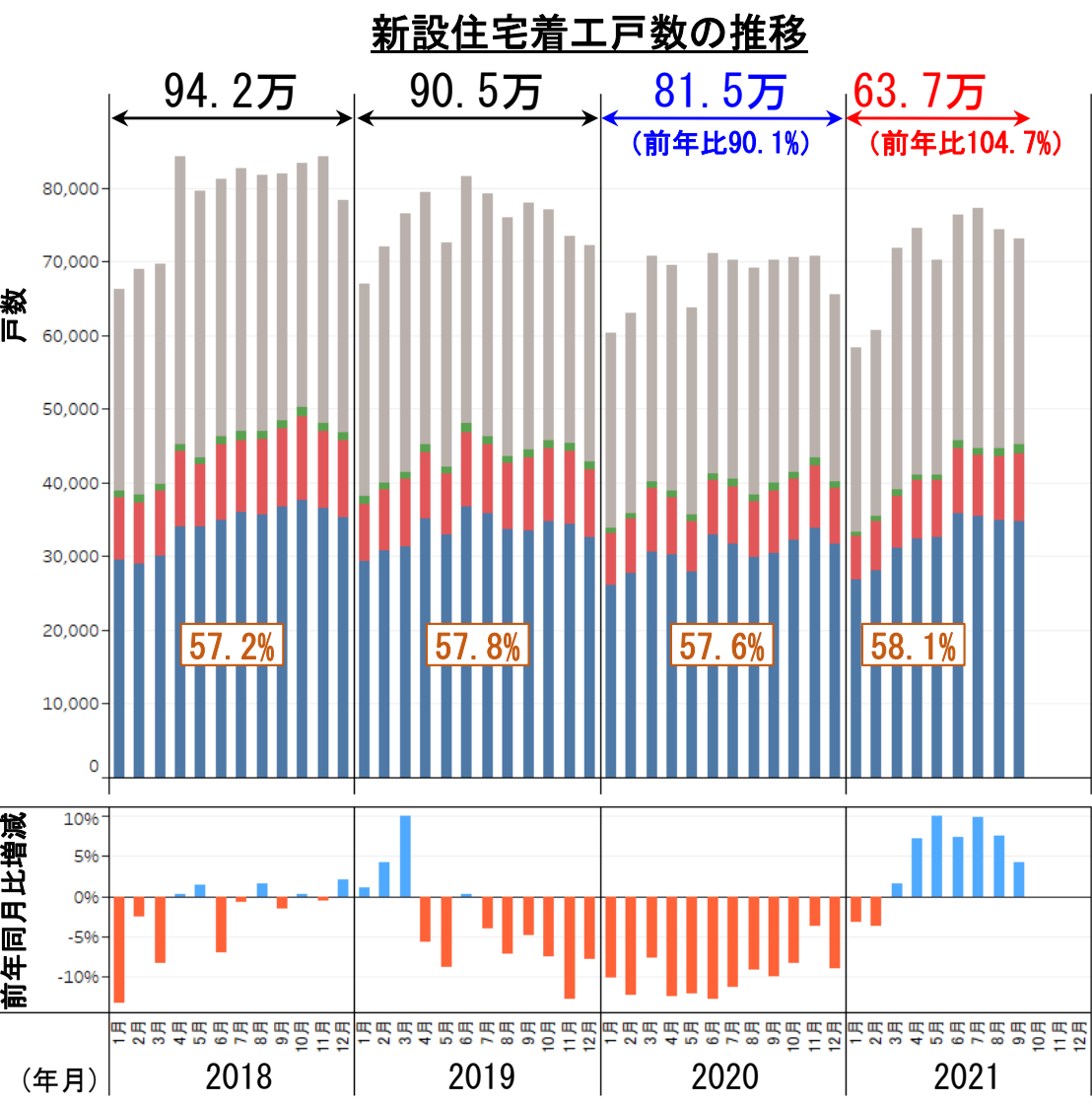
(3) チップ（全国）

- パルプ用チップの消費について、輸入広葉樹チップの消費量は2020年4月から6月まで激減した。その後は回復傾向。国産針葉樹チップの消費量は、2020年5月に大きく減少したが、その後回復した。
- 木質バイオマス発電向け燃料は、一貫して増加傾向が続いている。
- 紙の生産高は2020年6月に減少したが、その後一定程度回復している。

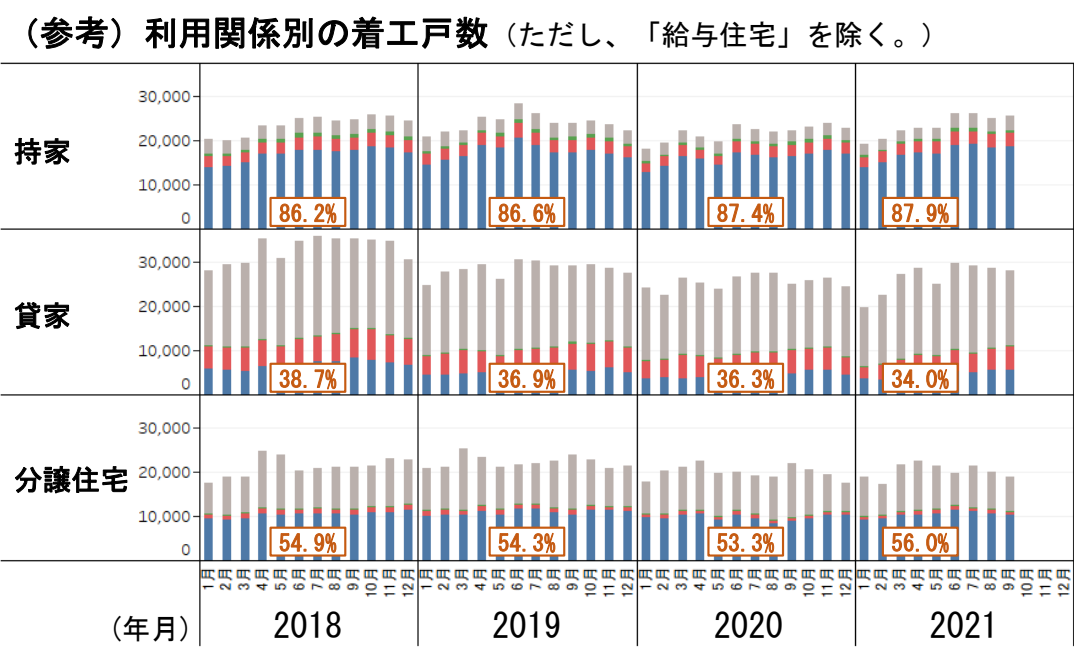


3 住宅着工戸数の動向 （1）全国の住宅着工戸数（2018年1月～2021年9月）

- 2020年の新設住宅着工戸数は、81.5万戸（前年比90.1%）、このうち木造住宅は46.9万戸（同89.7%）。
- 2021年1～9月の新設住宅着工戸数は、63.7万戸（前年比104.7%）、このうち木造住宅は37.0万戸（同107.5%）。
- 2020年は緊急事態宣言の発令により、住宅展示場の来場者数が落ち込むなど大手・注文住宅の受注機会が大幅に減少したが、郊外の戸建住宅に需要が高まるなど全体としてはリーマンショック時ほどの落ち込み※は見られなかった。
（※2009年の新設住宅着工戸数は前年比72%となった。）

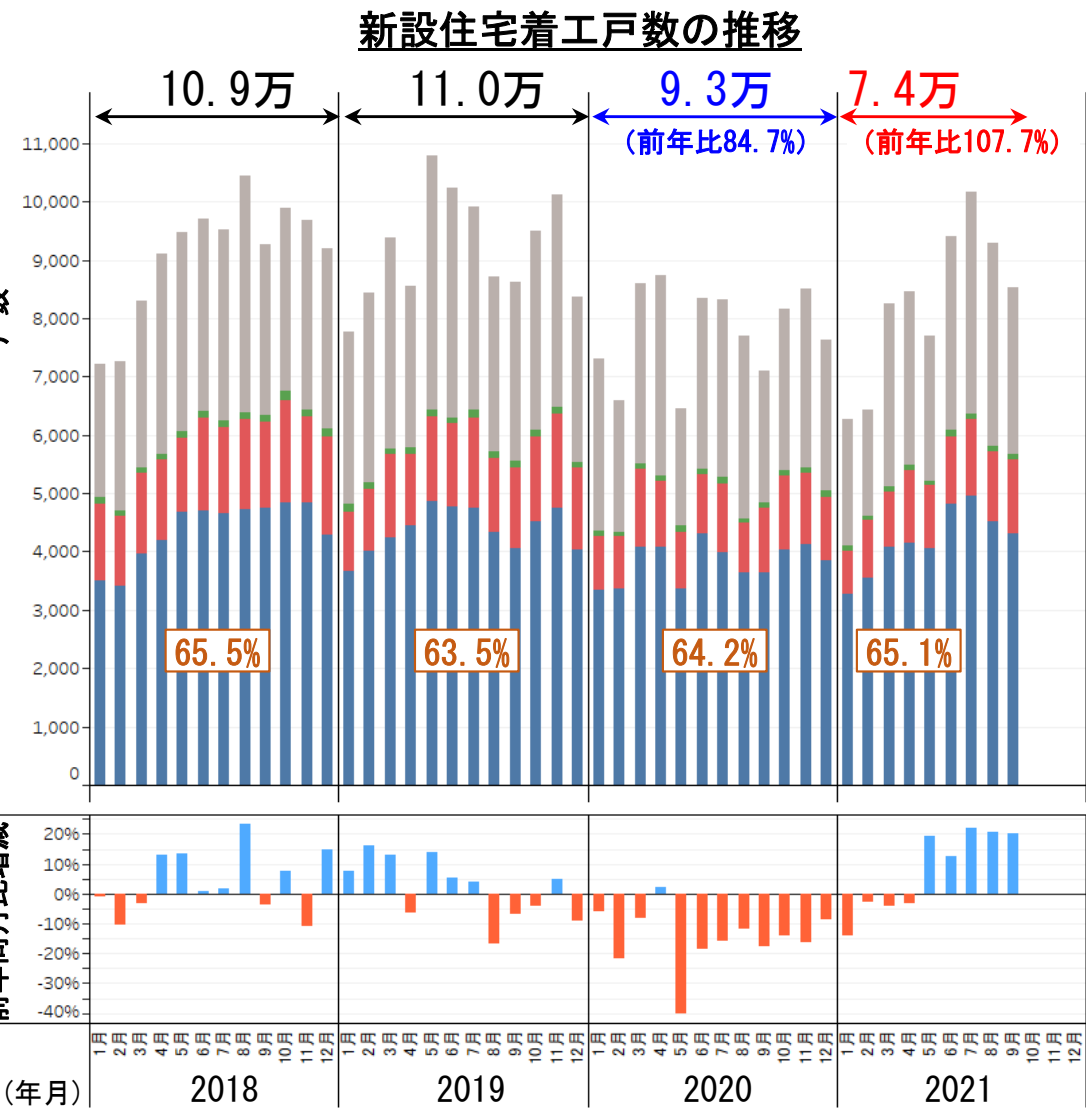


構造別の着工戸数	2021年 1～9月	前年 同期	前年 同期比	前々年 同期	前々年 同期比
合計	636,673	608,214	104.7%	682,303	93.3%
■非木造	266,483	263,936	101.0%	292,849	91.0%
木造	370,190	344,278	107.5%	389,454	95.1%
■木造プレハブ	7,641	8,010	95.4%	9,019	84.7%
■2×4	70,312	68,636	102.4%	80,742	87.1%
■在来軸組	292,237	267,632	109.2%	299,693	97.5%
□木造率	58.1%	56.6%		57.1%	



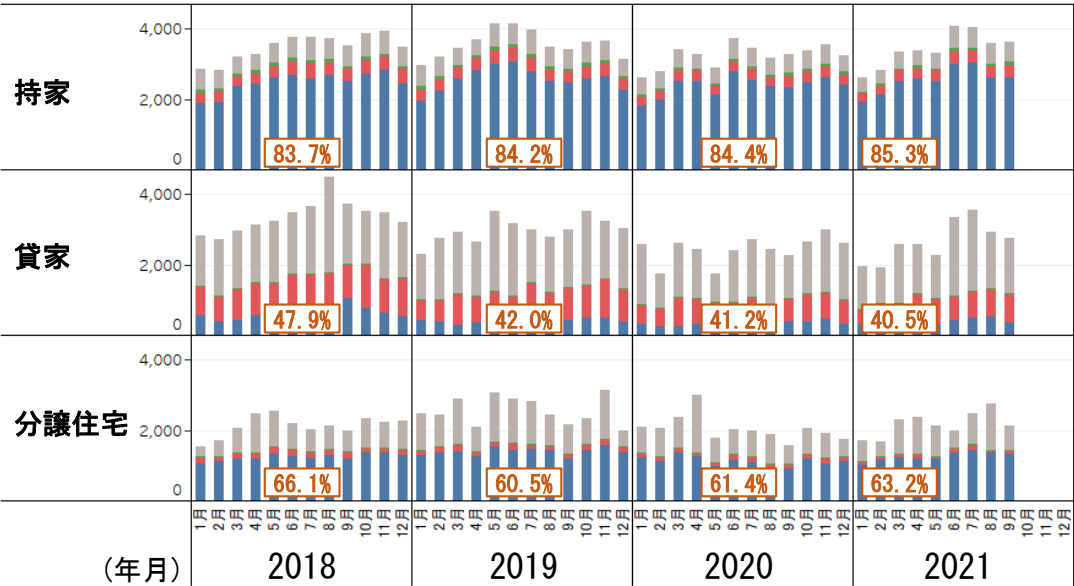
(2) 中部地区の住宅着工戸数（2018年1月～2021年9月）

- 2020年の新設住宅着工戸数は、9.3万戸（前年比84.7%）、このうち木造住宅は6.0万戸（同85.6%）。
- 2021年1～9月の新設住宅着工戸数は、7.4万戸（前年比107.7%）、このうち木造住宅は4.8万戸（同110.0%）。



構造別の着工戸数	2021年 1～9月	前年 同期	前年 同期比	前々年 同期	前々年 同期比
合計	74,482	69,150	107.7%	82,373	90.4%
■ 非木造	26,021	25,096	103.7%	30,405	85.6%
木造	48,461	44,054	110.0%	51,968	93.3%
■ 木造プレハブ	833	817	102.0%	1,021	81.6%
■ 2×4	9,937	9,408	105.6%	11,820	84.1%
■ 在来軸組	37,691	33,829	111.4%	39,127	96.3%
□ 木造率	65.1%	63.7%		63.1%	

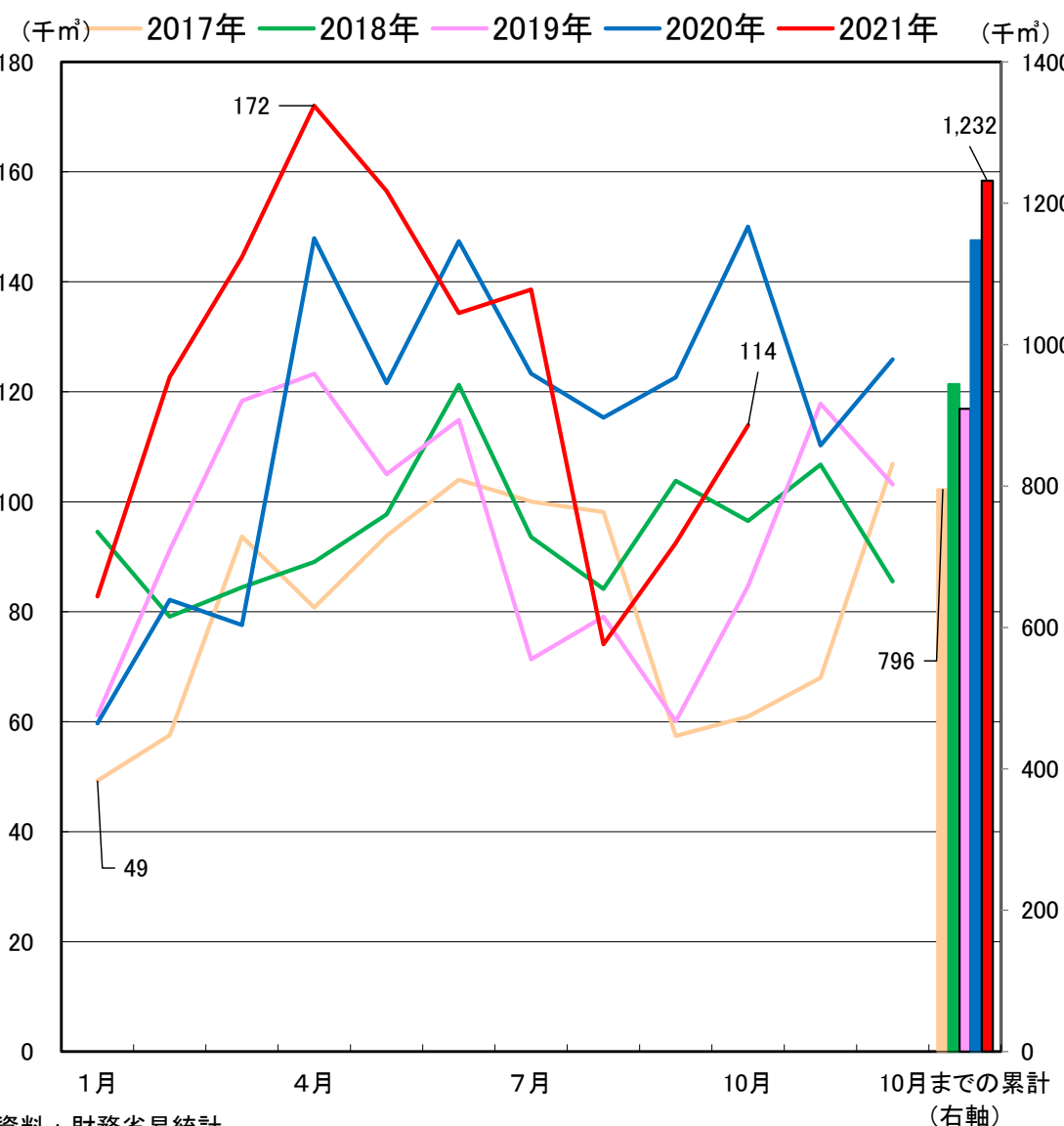
(参考) 利用関係別の着工戸数（ただし、「給与住宅」を除く。）



4 木材輸出量

・ 令和3年10月の輸出量は丸太114千^m（前年同月比76%）、製材19千^m（前年同月比113%）、合板等13千^m（前年同月比101%）となった。1～10月までの累計は丸太1,232千^m（前年同月比107%）、製材171千^m（前年同月比125%）、合板等120千^m（前年同月比141%）となった。

○丸太輸出量の推移（月別）



資料：財務省易統計
※貿易統計の第4403, 4407, 4412類を集計 ※四捨五入により、数値が合わないことがある

○木材輸出量の状況（累計：主な国別・品目別）

輸出先	単月(10月)			累計(1～10月)		
	主要品目内訳(千 ^m)			主要品目内訳(千 ^m)		
	前年比(%)			前年比(%)		
	丸太	製材	合板等	丸太	製材	合板等
中国	98 73%	5 98%	1 98%	1,024 107%	45 84%	9 158%
韓国	10 153%	1 70%	0 176%	110 108%	9 102%	1 195%
台湾	6 85%	1 62%	0 0%	75 107%	11 127%	0 209%
米国	0 —	4 65%	0 —	0 —	52 133%	0 —
フィリピン	0 —	5 159%	12 101%	0 —	44 209%	109 142%
総計	114 76%	19 113%	13 101%	1,232 107%	171 125%	120 141%

○税関ごとの丸太輸出量

税関名	管轄※	合計(千 ^m) (1～10月)	比率 (1～10月)
函館税関	北海道,青森,岩手,秋田	169.8	13.8%
東京税関	山形,群馬,埼玉,千葉,東京,新潟,山梨	5.0	0.4%
横浜税関	宮城,福島,茨城,栃木,千葉,神奈川	13.7	1.1%
名古屋税関	長野,岐阜,静岡,愛知,三重	23.0	1.9%
神戸税関	兵庫,鳥取,島根,岡山,広島,徳島,香川,愛媛,高知	26.4	2.1%
大阪税関	大阪,京都,和歌山,奈良,滋賀,福井,石川,富山	34.4	2.8%
門司税関	山口,福岡,佐賀,長崎,大分,宮崎	375.7	30.5%
長崎税関	福岡,佐賀,長崎,熊本,鹿児島	583.8	47.4%
沖縄地区税関	沖縄	0.0	0.0%

※木材の集荷範囲とは対応していない